

# 印刷物、VOC排出ゼロ

## 日精ピーアール 新装置導入

印刷業の日精ピーアール（東京・千代田、中村慎一郎社長）は印刷物の環境対応を強化する。大気汚染の原因物質である揮発性有機化合物（VOC）を排出しない印刷技術を導入。グリーン電力の購入を増やして二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出も1割削減する。印刷物に環境認証マークをつけられる利点を訴え、環境に配慮する顧客からの受注拡大を狙う。

保有する印刷機全2台を塗料以外の薬剤を使わない「水なし印刷」装置に改めた。従来型は色を付けない部分にアルコールを含んだ水を流し、水がインクをはじく性質を利用して印刷する。この際に出る廃液からVOCが発生していた。新しい

▼揮発性有機化合物（VOC） 英語でVolatile Organic Compounds。トルエンやキシレンなど石油化学製品が代表的な物質で、塗料や接着剤に多く含まれる。大気に放出されると光化学スモッグの原因となり健康に悪影響を及ぼす。政府は大気汚染防止法を改正し、06年度から施設ごとに排出基準を定める規制を開始した。10年度の国内の排出量は05年度に比べて3割減の79万トンドった。印刷業の排出量は全産業の6%を占める。

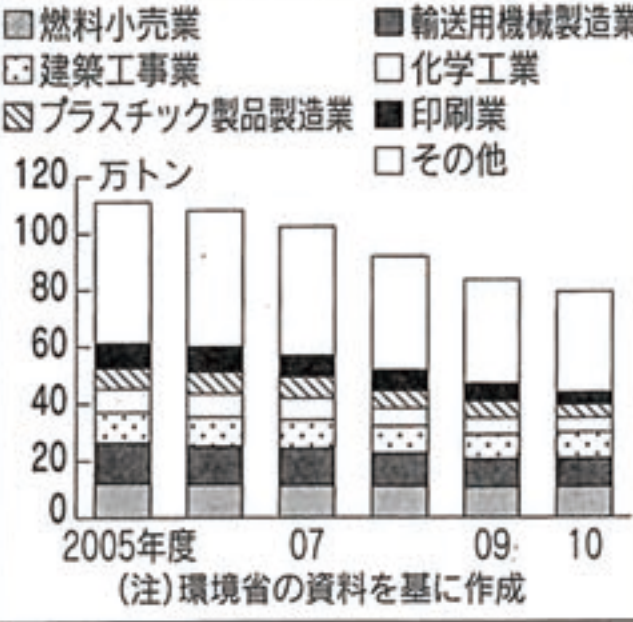
装置は薬剤と水の代わりシリコンを使う。インクの原料も石油製品から植物性に変え、VOCの排出をゼロにした。

再生可能エネルギーで発電したグリーン電力は昨年度に、年間30万キロワットの消費電力のうち2万5000キロワットを購入しており、今年度は2倍に増やす。将来は全量をグリーン電力で賄うことも検討している。印刷用紙はNPO法人の日本森林管理協議会が認証する森

マークをつける。環境配慮をアピールしたい企業や自治体からの受注拡大を見込む。同社の売上高は2013年3月期に約8億円。16年3月期に売上高2割増、売上総利益3割増を目指す。中村社長は「環境対応で印刷物の付加価値を高めたい」と話す。VOC排出の抑制は印刷業大手も取り組んでおり、大日本印刷が11年度に前年度比19%、凸版印刷が7%を削減した。V

OCを回収して焼却したり、有機溶剤に戻して再利用したりしている。両社とも水なし印刷を一部に導入しているが、「顧客の様々な要望に応えるため印刷機をすべて入れ替えるのは難しい」（凸版印刷）という。

印刷業のVOC排出量は国内の6%



新たに導入した水なし印刷機（東京都足立区の工場）

## グリーン電力も購入増

再生可能エネルギーで発電したグリーン電力は昨年度に、年間30万キロワットの消費電力のうち2万5000キロワットを購入しており、今年度は2倍に増やす。将来は全量をグリーン電力で賄うことも検討している。印刷用紙はNPO法人の日本森林管理協議会が認証する森

